

平成29年度 施策評価表 (平成30年度向け施策の取組方針)

施策名: 生涯学習
 施策番号: 02 - 01

1 施策の基本情報

施策名	02 生涯学習	展開方向	01 市民の主体的な学習や活動を支援するとともに、学習の成果を地域社会に活かすことのできる人づくり・しくみづくりを進めます。
担当当局	教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	基準値		目標値(H29)	実績値					現時点での達成率
					H25	H26	H27	H28	H29	
生涯学習推進事業等講座受講者数(公民館利用者数の内数)		H26	16,795 人	16,795	16,034	16,795	18,273	19,028	**	100%
学習を活かせる講座の受講者数		H27	1,593 人	1,673	**	**	1,593	1,633	**	50.0%
地域活動の中で、生涯学習の成果が活かされていると感じる市民の割合		H23	5.9 %	6.4	4.4	7.2	7.5	7.3	**	100%
図書の貸出し冊数		H24	149万 冊	150万	140万	137万	153万	152万	**	100%
図書館行事への参加人数		H24	7,429 人	7,800	7,065	7,764	9,594	9,385	**	100%

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	生涯学習活動の支援と成果の活用 運動やスポーツによる市民の健康づくり
------	---------------------------------------

重要度

	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
28年度	16.2%	37.2%	42.7%	3.3%	0.6%
	第18位 / 20施策		5点満点中	3.65点(平均3.89点)	
27年度			5点満点中	3.69点(平均3.98点)	
26年度			5点満点中	3.70点(平均3.99点)	

満足度

	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
28年度	3.3%	17.8%	65.6%	10.1%	3.3%
	第3位 / 20施策		5点満点中	3.08点(平均2.99点)	
27年度			5点満点中	3.07点(平均2.95点)	
26年度			5点満点中	3.05点(平均2.95点)	

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。

4 平成29年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1 拡充	学社連携推進事業
2	
3	
4	
5	

5 平成28年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1 拡充	学社連携推進事業
2 拡充	生涯学習推進事業
3 拡充	社会教育・地域力創生事業
4 新規	親子ボランティア体験学習事業
5	

6 平成27年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1 新規	旧梅香小学校敷地複合施設整備事業
2 新規	学社連携推進事業
3 拡充	図書館行事事業
4	
5	

7 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成28年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいくこと	生涯学習活動の支援と成果の活用・人材育成の推進
	総合戦略
<p>【社会教育施設を利用した学習機会の提供】 (目的) 講座等の参加を通じて施設を身近に感じてもらう、新たな利用者を開拓するとともに、市民の文化・教養の高揚に努める。また、講座で得た知識を活用し、社会貢献活動への参加意識を醸成するなど、学習の成果を活かした人づくりを推進する。 (成果) 図書館においては開館日数の増加及び公民館図書室の開架時間延長等による市民サービスの向上に加えて、ブックオーナーズ制度など図書の寄贈を活用する中、貸出し冊数の目標値を達成できた。(目標指標) また、子ども向け行事や成人層対象の特別講座などを実施し、展示や特設コーナーを強化することで、行事参加者数は目標値を達成できた。(目標指標) 親子ボランティア体験学習事業(延べ20人参加)では、すこやかプラザと特別養護老人ホームにおいて多世代交流などを行い、参加者の満足度が高かった。あまらぶ歴史体験学習事業では社会教育施設を活用し実施した。 (課題) 図書の貸出しなど利用者拡大に繋がる事業を幅広く実施する必要がある。 様々な体験ができるよう社会教育施設に限らず連携先の拡大が必要である。</p> <p>【ボランティアとの協働と活動支援】 (目的) 市民に親しまれる図書館を目指し、学習の成果を活用する機会の提供を行うとともに、協働により事業の充実と施設の活性化を図る。 (成果) 図書館においてボランティアグループとの協働の取組として、乳幼児・児童を対象とした読み聞かせを105回、視覚障害者がい者の方への対面朗読を165回、朗読会を22回実施したほか、公民館図書室の書架整理を行い読書環境の整備に寄与した。 (課題) ボランティアの活動内容が多岐に渡る中、新たな担い手の養成が課題となっている。</p> <p>【学校教育と社会教育の連携の推進】 (目的) 学校を中心に、地域の豊かな社会資源を活用することで、地域の人々の活動・学習を支援し、その取組の充実や、子どもたち・地域へ還元する機会の創出を図る。 (成果) 「学校支援活動コーディネートモデル事業」としてモデル校である2小学校に加え、順次5校拡充してコーディネーターを配置し、学校支援活動につながる仕組みづくり、人づくりに取り組み、7校で実施した。モデル校での活動支援を行うとともに、未実施校を含めた学校関係者への研修会の実施、学校と地域への訪問などを行い、実施校の拡充に努め、次年度へ向けて4校の追加実施へとつながった。各校の活動は多岐にわたり、学習支援活動や漢字検定の実施、地域イベントの開催など、支援の手段も広がっている。(目標指標) 昨年度から試行実施した「生き方探究キャリア教育支援事業」は、実施校を増やし(10校→20校)、児童生徒が将来の生き方や職業観を考えるとする本来の趣旨に加え、講師となった地域の職業人にとっても学びの機会となっている。実施した学校からも、有効な取組であるとの評価を得ている。 (課題) コーディネーター配置校数の増により更に実施校への支援の機会が増えている。また、拡大に向けて、事業に対する学校関係者との調整や地域人材の発掘には、時間をかけ丁寧な個別対応が必要である。 「生き方探究キャリア教育支援事業」の実施においては、公民館と学校との役割分担の明確化が必要であるほか、更に拡大するには運営面等での負担もあり、改善が必要である。</p> <p>【学びの成果を活かす事業の展開】 (目的) 生涯を通じて学び続けることができる学習環境の実現に資するため、各種講座を開催する。地域課題や社会問題化している課題などに焦点をあてた講座を展開するとともに、地域への学びの循環を図る。 (成果) 地域・現代学講座の受講者の増や、新規事業を実施したこと等により、昨年度より755人増加している。(目標指標) 認知症や子どもの居場所など社会問題化しておりかつ地域住民の関心が高い講座の開催や、「地域の課題を語りあい実践を考える場」の提供を実施した結果、受講者から高い満足度を得られた。学びの楽しさを体感する中で、学習グループの組織化を図る「学びの楽しさを学ぶワンコイン講座」を各公民館で開催したが、グループ結成は1グループにとどまった。(目標指標) (課題) 「地域課題を語りあい実践を考える場」には参加が少ないといった現状がある。公民館においては、グループでの継続学習が有効となり得る講座の企画に加え、受講者の意欲の持続・向上、グループ化後の運営支援、地域への循環に向けた行動変容等を促すことができるためのコーディネート技術の向上、実践が引き続き必要である。</p>	

平成29年度の取組	
【社会教育施設を利用した学習機会の提供】	公民館図書室においてこれまで休室していた日曜日を開室し、市民サービスの向上を図る。
【ボランティアとの協働と活動支援】	身体等に障がいを持ち来館困難な利用者を対象にした図書の宅配サービスの実現に向けて、図書館ボランティア養成講座を実施するほか、書架整理等で活動中のボランティアにも働きかけを行う。
【学校教育と社会教育の連携の推進】	「学校支援活動コーディネートモデル事業」から「学校と地域の連携・協働活動事業」として平成29年度は11校から取り組み始めた。更に、学校教育課へ本事業に係る職員を配置し、実施校の拡大と充実に努めていく。 「生き方探究キャリア教育支援事業」を学社連携の事業として持続し、実施校の拡大と充実に努める。
【学びの成果を活かす事業の展開】	公民館での講座の企画・実施においては、地域課題や社会問題を扱う講座を継続的に開催していく。また、「学びの楽しさを学ぶワンコイン講座」については、課題を検証し、講座で学習したことをグループで継続学習できるよう有効な仕掛けを検討して取り組む。
新規・拡充の提案につながる項目	
【学校教育と社会教育の連携の推進】	「学校と地域の連携・協働活動事業(地域学校協働本部)」の実施校の拡大と充実に向けて更に学校教育と社会教育が連携し取組む。
改革・改善の提案につながる項目	
	枠配分予算の捻出にあたっては、生涯学習施策全体で見直しを検討していく。

8 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針	
	・まち全体で地域や社会に対する関心を高めるとともに、より主体的な学びをサポートしていく必要がある。
	・公民館や地区会館など地域にある様々な施設において、学びの機会が得られるよう取組を進めるとともに、学びと実践が循環するよう連携強化を図る必要がある。
	・こうしたことから、地域振興体制の再構築についての検討の中で、地域における施設のあり方や、学びのサポート機能の充実について検討を進めていく。
	・図書館については、開架時間延長や開館日数の増などにより前年度大きく増加した貸出冊数を維持し、各種行事・講座の開催など引き続き取組を進めていく。
総合評価	
重点化	転換調整
	現行継続

平成29年度 施策評価表 (平成30年度向け施策の取組方針)

施策名: 生涯学習
 施策番号: 02 - 02

1 施策の基本情報

施策名	02 生涯学習	展開方向	02 健康の保持・増進を図るため、気軽に運動やスポーツを楽しめる環境づくりに取り組めます。
主担当局	教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合		H26 63.3 %	66.8	71.0	63.3	62.3	68.6	**	100%
誘致大会観戦者及び市民スポーツ大会参加者数		H24 65,499 人	68,774	80,257	66,980	74,478	73,197	**	100%
生涯スポーツ・レクリエーション事業参加者数		H24 16,708 人	17,933	14,784	14,294	13,135	12,516	**	0%
学校開放利用者数		H24 735,935 人	772,731	677,323	689,578	690,150	737,741	**	4.9%
地区体育館等利用者数		H24 414,591 人	435,320	407,715	405,533	412,669	401,034	**	0%

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	生涯学習活動の支援と成果の活用 運動やスポーツによる市民の健康づくり
------	---------------------------------------

重要度

	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
28年度	16.2%	37.2%	42.7%	3.3%	0.6%
	第18位 / 20施策		5点満点中	3.65点 (平均3.89点)	
27年度	第18位 / 20施策		5点満点中	3.69点 (平均3.98点)	
26年度	第18位 / 20施策		5点満点中	3.70点 (平均3.99点)	

満足度

	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
28年度	3.3%	17.8%	65.6%	10.1%	3.3%
	第 3位 / 20施策		5点満点中	3.08点 (平均2.99点)	
27年度	第 3位 / 20施策		5点満点中	3.07点 (平均2.95点)	
26年度	第 4位 / 20施策		5点満点中	3.05点 (平均2.95点)	

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。

4 平成29年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	
2	
3	
4	
5	

5 平成28年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	拡充 生涯スポーツ・レクリエーション事業
2	
3	
4	
5	

6 平成27年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	
2	
3	
4	
5	

7 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成28年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいること	運動やスポーツによる市民の健康づくり 【気軽にスポーツやレクリエーションに参加できる環境づくり】 (目的) 尼崎市スポーツ推進計画(後期計画)に基づき、個々の生活リズムに合わせて気軽にスポーツやレクリエーションに参加できる環境づくりや、情報提供等を行う。 (成果) 「尼崎市スポーツ推進計画(後期計画)」に掲げる取組の指標として、「健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合の10%増」を設定している。「親子スポーツ推進事業」などの取組を行った結果、スポーツ実施率は68.6%となり、昨年度の実施率62.3%を上回り、目標値も達成した。(目標指標) 「スポーツのまち尼崎」促進事業では、全日本学生柔道団体優勝大会などの大会誘致を行った。また、市民スポーツ大会事業では、市報や「あまスポ」などを活用し、大会関係者だけでなく、一般市民に広く広報した結果、テニス・水泳の延べ参加者数の増加が大きく、昨年度実績から微減となったものの、昨年度に引き続き目標値を達成することができた。(目標指標) 生涯スポーツ・レクリエーション事業参加者数は昨年度から619人の減となった。これは、主として、事業の見直しにより、昨年度をもって「子どもたちの体力づくりモデル事業」を終了したためであり、これを除くと、209人減である。(目標指標)一方で、拡充事業として「がんばりカード(1日1回運動)事業」をリニューアルし、がんばりカードの取扱及び様式を改めた。これにより、市民が運動やスポーツに取り組む動機づけとなるよう事業展開を行ったものの、事業参加者数の増加には至らなかった。 市民スポーツの拠点として、市立小・中学校の体育館や運動場などのスポーツ施設を開放している。昨年度末をもって、耐震化工事が一定終息し、スポーツ施設の利用が可能となったことから、市立小・中学校のスポーツ施設の利用者数は737,741人となり、平成24年度の基準値を上回る利用者数となった。(目標指標) 「健康づくり教室」や「トレーニング指導」などの各種事業を実施することにより、スポーツへの関心と参加意欲を高め、健康づくりや地域コミュニティづくりの促進を図っているものの、地区体育館などの利用者数は401,034人となっており、昨年度の利用者数から11,635人の減となった。(目標指標) (課題) 「尼崎市スポーツ推進計画(前期計画)」で目標を達成できなかった「子ども」の体力向上、相対的にスポーツ実施率が低い「働く世代」や「女性」のスポーツ実施率向上、本市スポーツ振興事業やスポーツ施設に関する情報発信の更なる強化が課題である。 より多くの市民がスポーツに触れる機会を増やすために、「スポーツのまち尼崎」促進事業では、新たな大会の誘致を行い、市民スポーツ大会事業については、事業の認知度を高めるための取組が必要である。 「がんばりカード(1日1回運動)事業」の拡充に向けて、事業のPRなど生涯スポーツ・レクリエーション事業参加者数の増加に繋がるような取組が必要である。 継続・固定化された地域のクラブやサークルによる利用が多く、新規参加が難しいなどの課題があるため、できるだけ多くの市民がスポーツ施設を利用できるための工夫が必要となっている。なお、地域団体による学校開放事業の運営を、平成29年1月から杭瀬小学校において試行的にスポーツクラブ21杭瀬により開始する予定であったが、その具体的な運営方法についての調整がつかず、開始できなかった。 社会体育施設の老朽化が著しい中、情報発信も積極的に行っているが利用者数は伸び悩んでいる。重点的に取り組んだ親子スポーツの取組では、新たな競合先の出現などもあり、受講者確保の取組を行うほか、将来的には、体育館で行う教室など“待ち”の事業だけでなく、指導者派遣のようなこちらから打って出る事業に軸足を移すことも必要になるものと考え、あわせて、市民が利用しやすいスポーツ施設のあり方・運用を検討する必要がある。
総合戦略	

平成29年度の取組

【気軽にスポーツやレクリエーションに参加できる環境づくり】
引き続き、「子ども」や「働く世代」、「女性」のスポーツ実施率の更なる向上に取り組むとともに、障がい者スポーツなどに向けた取組など、尼崎市スポーツ推進計画(後期計画)に掲げる施策に順次取り組んでいく。
「スポーツのまち尼崎」促進事業において、新たにWリーグ(女子バスケットボール)、全日本軟式野球大会、Vプレミアリーグ女子(バレーボール)の大会誘致を行い、観戦者数の増加を図る。
地域団体による学校開放事業運営の手法を探るため、運営方法についての調整を杭瀬小学校及びスポーツクラブ21杭瀬と行い、試行を開始する。
幼児の教室の対象年齢を引き下げるなど、受講生獲得の取組を行っている。また、園田体育館の屋上防水改修工事及び吊天井撤去工事を行う予定となっている。
～ 各事業の認知度を高めるため、市報や「あまスポ」などの活用を行い、広く一般市民に広報を行い、事業全体の実績の増加に向け取組を行う。

新規・拡充の提案につながる項目

改革・改善の提案につながる項目

【気軽にスポーツやレクリエーションに参加できる環境づくり】
スポーツクラブ21杭瀬による試行において、地域への運営移行にあたっての課題整理を行い、地域団体による運営のモデルケースの作成を行っていく。

8 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針	
・生活習慣病や介護予防の観点からも市民の健康維持は重要な課題であることから、気軽に運動やスポーツを楽しめる環境づくりを進めるため、引き続き「尼崎市スポーツ推進計画」に基づき取組を進めていく。	
・公共のスポーツ施設については施設の老朽化や未耐震施設が課題となっている。時代の変化を踏まえた公民の役割分担と、実施している事業の見直しを検討していく必要がある。	
・学校開放事業については、地域運営についての試行の結果を踏まえ、将来的に他の学校へ拡大できるよう、取組を進めていく。	

総合評価

重点化	転換調整	現行継続
-----	------	------

平成29年度 施策評価表 (平成30年度向け施策の取組方針)

施策名: 生涯学習
 施策番号: 02 - 03

1 施策の基本情報

施策名	02 生涯学習	展開方向	03 生涯学習やスポーツ活動を通じて、生きがいづくりや地域での交流を促進していきます。
担当当局	教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	基準値		目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率
					H25	H26	H27	H28	H29	
家庭・地域教育推進事業等講座受講者数(公民館利用者数の内数)		H26	18,471 人	18,471	17,791	18,471	19,224	19,979	**	100%
公民館まつり参加グループ数		H24	277 団体	277	281	260	283	274	**	98.9%
公民館登録グループ数(4/1現在)		H24	338 団体	338	340	338	337	367	**	100%
公民館夏休みオープンスクール受講者数		H27	649 人	649	**	**	649	1,507	**	100%

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	生涯学習活動の支援と成果の活用 運動やスポーツによる市民の健康づくり
------	---------------------------------------

重要度

	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
28年度	16.2%	37.2%	42.7%	3.3%	0.6%
	第18位 / 20施策		5点満点中	3.65点(平均3.89点)	
27年度	第18位 / 20施策		5点満点中	3.69点(平均3.98点)	
26年度	第18位 / 20施策		5点満点中	3.70点(平均3.99点)	

満足度

	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
28年度	3.3%	17.8%	65.6%	10.1%	3.3%
	第 3 位 / 20施策		5点満点中	3.08点(平均2.99点)	
27年度	第 3 位 / 20施策		5点満点中	3.07点(平均2.95点)	
26年度	第 4 位 / 20施策		5点満点中	3.05点(平均2.95点)	

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。

4 平成29年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	
2	
3	
4	
5	

5 平成28年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	新規 あまらぶ歴史体験学習事業
2	拡充 家庭・地域教育推進事業
3	
4	
5	

6 平成27年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	拡充 家庭・地域教育推進事業
2	
3	
4	
5	

7 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成28年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいること	市民の生きがいづくりや交流の推進
	総合戦略
<p>【社会教育施設等や地域資源を活用した事業の展開】 (目的)地域の歴史や文化について学習する機会を提供し、地域に対する誇りと愛着の醸成を図る。 (成果) 地域・現代学講座として実施した村野藤吾記念事業では、目黒美術館の呼びかけで、村野藤吾建築ネットワークの一環として、大庄公民館見学会(定員20人)を3回開催したところ、計56人の参加があった。 社会教育施設(田能資料館、文化財収蔵庫、大庄公民館)においてバスツアーと体験学習会を開催し、併せて延べ114人の参加があり、尼崎の歴史に対する関心を高め、郷土愛の醸成へつなげた。 (課題) 建物への愛着を地域コミュニティの活性化に活かせるよう、地域振興センターや学校と連携を強化する中で、並行して進めている市民企画会議やガイドボランティア養成と連動させていく必要がある。地域への愛着が持てるよう交流を広げるため様々な施設の活用を検討する。</p> <p>【家庭・地域教育推進事業】 (目的)家庭教育及び地域教育を推進するための各種講座を開催し、公民館登録グループ相互の交流や地域住民相互の交流促進を図り、こうした機会の中で、学びの地域への循環を促進する。 (成果) 公民館まつりや公民館夏休みオープンスクールの参加者の増により、昨年度より755人増加している。(目標指標) 公民館まつりの参加グループ数及び公民館登録グループ数は、一定数を確保できている。(目標指標) 公民館夏休みオープンスクールの受講者数は、昨年度の実績から858人増え、地域住民同士の世代間の交流及び自らの学びを他者や地域に循環させる趣旨を達成している。講師となった地域住民にとっては教えることの楽しさや難しさを学ぶ機会となったほか、グループ活動の活性化につながった。また、普段、公民館に来館することのない親子が、公民館活動を知る機会となった。(目標指標) (課題) 学習活動を通じた交流の機会やその成果発表の場の提供の意義について、公民館登録グループや地域団体等とも共有し、主体的な参加について働きかけを行い、参加者増を図る必要がある。公民館においては、その実現のためのコーディネート技術の向上、有効となる仕掛けの考案、その実践が引き続き必要である。</p> <p>【学習機会を通じた地域団体の連携促進】 (目的)子育て支援団体が、相互に学びあえる機会を設けることにより、地域の子育て力を高め、子育てしやすい環境づくりに資する。 (成果) 立花地域振興センター、社会福祉協議会立花支部等と連携して、「立花(りっぱな)子育てひろげようサミット」(16団体参加)を3回開催し、グループワークを基本として、活動の現状・課題の共有、解決のために連携して実践できることなどについて意見交換を行ったことにより、参加者同士で「顔が見える関係」が築かれ、緩やかにつながるネットワーク団体が生まれた。 (課題) 緩やかにつながるネットワーク団体が生まれ、主体的活動が始まりつつあるが、参加者同士による主体的な学習や取組の企画、実践、参加団体の増加等について、当面の間、公民館等が側面支援を行う必要がある。</p> <p>【学習の機会や情報の提供】 (目的)学習や、学んだことを地域へ活かすことができるよう機会の提供や情報の発信を行う。 (成果) 生涯学習情報誌「あまナビ」を年2回(各36,500部)発行し、公共施設や民間施設を合わせ市内626箇所に設置しており、特集として学びを活かせる講座や、みんなの尼崎大学の取組を掲載した。加えて、ブログにおいても年間146件(41件増)更新し、積極的に情報発信を行った。また、みんなのサマーセミナーでは運営等積極的に参加するなど市民や事業者と協働して学びの創出に努めた。 (課題) みんなの尼崎大学においても学びの検索サイトやブログ等において、学びに関する情報の提供をしており、「あまナビ」などの取組と連動して進めていくため関係部署と調整を行う必要がある。</p>	

平成29年度の取組

<p>【社会教育施設等や地域資源を活用した事業の展開】 村野藤吾記念事業では、大庄公民館の活用を通じて地域コミュニティの活性化に資するよう、地域振興センター等とも一層連携を深め、市民企画会議で検討を進める。 【家庭・地域教育推進事業】 公民館夏休みオープンスクールにおいては、子どもが興味をもつ活動を行っているグループに対して参加を促し、親子の受講機会の増に取り組む。 【学習機会を通じた地域団体の連携促進】 立花(りっぱな)子育てひろげようサミットにおいては、参加団体による主体的な学習や取組の企画、実践等の側面支援を引き続き行う。 【学習の機会や情報の提供】 生涯学習情報誌「あまナビ」において講座の分類等、みんなの尼崎大学の取組と連動するよう検討する。また、設置個所の拡大に努める。</p>

新規・拡充の提案につながる項目

<p>【家庭・地域教育推進事業】 「公民館夏休みオープンスクール」に加え、公民館登録グループが、その学習活動について、地域のニーズに応じて講師等となり地域に還元できるよう、公民館がコーディネートを行うことを前提とした事業を検討する。</p>

改革・改善の提案につながる項目

--

8 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針	
・公民館については、地域振興センターと連携した取組を検討しているところであるが、各種連携の進み具合には地域差も見られることから、今後は6地区全体に広げていけるよう取り組んでいく必要がある。	
・「あまナビ」を始めとした情報発信については、学びに関するプラットフォームとして取組を進めている「みんなの尼崎大学」と連動させて取組を更に広げていく。	

総合評価

重点化	転換調整	現行継続
-----	------	------